Japanese Journal of Applied Psychology
2008, Vol. 33, No. 2, 175-185

2007年度理事会議事録

日　時：2007年9月7日（金）
午後5時～午後7時

場　所：奈良ホテル

出席者：岡村一成理事長*，荻野七重副理事長*，井上孝代，浮谷秀一*，尾入正哲　大橋信夫*，小野浩一，垣本由紀子*，川本利恵子，大坊郁夫，田中真介，谷口泰富，田之内厚三*，豊村和真，内藤哲雄*，馬場房子，藤田主一*，細江達郎，松浦常夫*，松田浩平*，向井希宏*，森下高治，蓮花一己*（第74回大会委員長）（*常任理事）
藤森立男（監事）

陪　席：長塚康弘，山岡淳，大久保康彦（名誉会員）
中谷内一也（大会事務局長）

委任状：大渕憲一，嘉部和夫，鎌形みや子，桐生正幸，星野仁彦，松下由美子，南隆男，森脇保彦

事務局：浮谷秀一（事務局長），伊波和恵（事務局幹事）

1. 理事長挨拶
   - 第74回大会開催に際しての御礼の挨拶があった。
   - 逝去された名誉会員（花沢成一氏，田中冨士夫氏，亀井一綱氏）について報告があった。
2. 第74回大会委員長挨拶（蓮花大会委員長）
   - 大会の概要について説明があった。
3. 報告事項
   (1) 事業報告
   1) 会員の異動および会費納入状況
   （浮谷事務局長）
   - 3/31現在の会員数1,104名で，内訳は正会員数1,019名，学生会員2名，名誉会員40名，終身会員39名，賛助会員4名である。終身会員の新設に伴う正会員からの種別変更は39名であった。
   - 9/3現在，2007年度の会費納入状況は，67.0%（納入者715名，未納者355名）である。

   2) 委員会報告
   ①機関誌編集委員会（藤田委員長）
   - 第32巻第2号（2006年度）の発行について説明があった。
   - 投稿・執筆規程ならびに編集規程が新しくなり，第32巻2号に掲載し周知した。
   - 「短報論文」新設後の反応と掲載体裁について説明があった。反応が大変よく，問い合わせも投稿件数も増えた。ただし，印刷のレイアウトについて調整が必要な論文もあるので，レイアウト（イメージ）に関する注意事項をホームページに掲載するなどして，さらに喚起するとの説明があった。（たとえば，共同研究者が多人数の場合に，本文は通常の行数よりも減らす必要が生じる，など。）
   - 第26回国際応用心理学会特集号は，通常の機関誌に1号追加して，別途発行することになった。

   ②企画委員会（内藤委員長）
   - 前年度に開催予定の公開シンポジウムを2007年4月14日に明治学院大学において開催した。テーマは「過重負担の医療・福祉従事者をどう支援するか？」であった。
   - 本年度公開シンポジウムは，2007年11月17日（土）13：30～16：00に東京富士大学において開催する予定である。テーマは「異文化対立から相互理解へ：理解と和解のためのフロンティア」である。企画は，内藤哲雄（信州大学），司会は，伊藤武彦（和光大学），内藤哲雄，（話題提供者）話題提供者は，井上孝代（明治学院大学）「『世界青年の船』への参加者の異文化対立と相互理解」，伊藤哲司（茨城大学）「日韓における傷ついた関係の修復：円卓シネマによる対話の実践」，指定討論者は大渕憲一（東北大学）である。
   - 大会時研修会については，次のように決まった。研修会A（9月8日）「社会における応用心理士の使命と課題・留意点」神作博先生（中京大学名誉教授），研修会B（9

月9日)「コンフリクト転換のカウンセリング」井上孝代先生（明治学院大学）

③広報委員会（松田委員）

・ニュースレター次号の発行は大会終了後，11月頃を予定。

・ホームページの再構築作業中である。

④「応用心理士」認定審査委員会（浮谷委員長）

・19名の申請があり16名を合格・認定した。合格者のうち1名は辞退した。

・広報の方法ならびにポイント制について今後検討する予定である。

⑤国際交流委員会（蓮花委員長）

・第26回国際応用心理学会特集号については，抜刷代を負担する予定である。

・今年度末には，オーストラリア（メルボルン）での大会について，企画内容等を検討する予定である。

⑥若手研究者支援委員会（田之内委員長）

・第73回大会時の活動報告があった。責任発表者である院生の発表費の全額補助について，補助件数は20件，補助率は22%であった。自主シンポジウム等の企画責任者への補助は0件，非会員学生の当日参加優遇措置は9件であった。

・若手研究者への学会大会参加支援制度の利用申込み者は現在3名である。今年度の大会では約40件の大学院生の発表があるにもかかわらず，申込み者が少なかった。来年度の大会に向けて，大会当日の対応の仕方ならびに広報手段等を今後検討したい。

・広報手段について，大会申込み手続きの際，大学院生が紙媒体の確認をせず，Webでのみ，大会情報を得ている可能性が示唆された。Web上での注意喚起も来年度の検討課題である。

・今年度については，大会当日，該当する発表者向けにカードを配布して広報に努める。

⑦学会賞選考委員会（荻野委員長）
（旧：学会賞・奨励賞選考委員会）

・学会賞規程ならびに学会賞選考細則の変更に関する経緯について説明があった：奨励賞は廃止し，学会賞を論文部門と実践活動部門の2本にするとともに，学会賞の授与を隔年とした。

3) 設立60周年記念事業報告（岡村理事長）

・日本応用心理学会設立60周年記念事業として，『応用心理学事典』（丸善）を刊行した。これに関連して，2007年2月23日，出版記念パーティーならびに高嶋正士先生による記念講演を開催した。

4) その他

・会員名簿発行について報告があった。

・中谷内大会事務局長より挨拶があった。

(2) 2006年度　第73回大会報告（松田大会準備副委員長）

・大会収支決算について報告があった。

(3) 日本心理学諸学会連合（日心連）報告（垣本担当常任理事）

・役員選挙が行われ，会長に市川伸一先生（日本教育心理学会），副会長に大坊郁夫先生（日本社会心理学会），野島和彦先生（人間性心理学会）が選出された。

・「心理学検定（1級・2級）」の実施が決定した。2008年9月14日札幌，東京，名古屋，大阪，福岡にて開催予定。現在は募集要項，マニュアル等作成中（たとえば，受験条件：誰でも受けられる。合格基準：1級＝A領域5つ，B1つ以上合格者，2級＝A2つ，B1つ以上合格者。認定心理士については，A領域で3つ以上合格，など）である。

・検定局員30名が任命され，実務にあたっている。約2,500万円の予算がついていることのほか，作業日程の概略について説明があった。

・資格制度検討委員会が16名の委員で構成され，検定合格者や認定心理士との整合性について社団法人日本心理学会，認定心理士会等を交え，8回の会合を重ね，調整している。

(4) その他

・内藤常任理事より，「応用心理士」活動の広報ならびに研修機会等のあり方について提案があり，今後検討していくことになっ

た。

4. 審議事項

(1) 2006年度決算に関する件（浮谷事務局長）

・決算書について浮谷事務局長より説明があった。続いて，藤森立男監事より監査結果について報告があり，承認された（別紙資料参照）。

(2) 2007年度予算に関する件（浮谷事務局長）

・予算案について浮谷事務局長より説明があり，承認された。

(3) 名誉会員推戴に関する件（岡村理事長）

・常任理事歴通算2期以上の経験者である馬場房子氏，垣本由紀子氏の2名が推戴され，承認された。

(4) 2009年度第76回大会当番機関に関する件（岡村理事長）

・川本利恵子先生（九州大学）を大会委員長にすることが提案され，承認・決定した。産業医科大学（北九州市）または九州大学にて開催予定で調整中であるとの挨拶があった。

5. 2008年度第75回大会委員長挨拶（藤森大会委員長：横浜国立大学）

・9月14（日）15日（月）に横浜国立大学において開催されるので多くの方が参加していただければと挨拶があった。

2007年度総会議事録

日　時：2007年9月8日（土）
　　11時30分～12時30分
場　所：帝塚山大学学園前キャンパス

1. 理事長挨拶

・第74回大会開催に際しての御礼の挨拶があった。

・逝去された名誉会員（花沢成一氏，田中冨士夫氏，亀井一綱氏）について報告があった。

2. 第74回大会委員長挨拶（蓮花大会委員長）

・大会の概要について説明があった。

3. 議長選出

・議長として蓮花大会委員長を選出した。

4. 報告事項

(1) 事業報告

1) 会員の異動および会費納入状況（浮谷事務局長）

・3/31現在の会員数1,104名で，内訳は正会員数1,019名，学生会員2名，名誉会員40名，終身会員39名，賛助会員4名である。終身会員の新設に伴う正会員からの種別変更は39名であった。

・9/3現在，2007年度の会費納入状況は，67.0%（納入者715名，未納者355名）である。

2) 委員会報告

①機関誌編集委員会（藤田委員長）

・第32巻第2号（2006年度）の発行について説明があった。

・投稿・執筆規程ならびに編集規程が新しくなり，第32巻2号に掲載し周知した。

・「短報論文」新設後の反応と掲載体裁について説明があった。反応が大変よく，問い合わせも投稿件数も増えた。ただし，印刷のレイアウトについて調整が必要な論文もあるので，レイアウト（イメージ）に関する注意事項をホームページに掲載するなどして，さらに喚起するとの説明があった。（たとえば，共同研究者が多人数の場合に，本文は通常の行数よりも減らす必要が生じる，など。）

・第26回国際応用心理学会特集号は，通常の機関誌に1号追加して，別途発行することになった。

②企画委員会（内藤委員長）

・前年度に開催予定の公開シンポジウムを2007年4月14日に明治学院大学において開催した。テーマは「過重負担の医療・福祉従事者をどう支援するか？」であった。

・本年度公開シンポジウムは，2007年11月17日（土）13：30～16：00に東京富士大学において開催する予定である。テーマは「異文化対立から相互理解へ：理解と和解のためのフロンティア」である。企画は，内藤哲雄（信州大学），司会は，伊藤武彦

(和光大学)，内藤哲雄，(話題提供者) 話題提供者は，井上孝代（明治学院大学)「『世界青年の船』への参加者の異文化対立と相互理解」，伊藤哲司（茨城大学)「日韓における傷ついた関係の修復：円卓シネマによる対話の実践」，指定討論者は大渕憲一（東北大学）である。

・大会時研修会については，次のように決まった。研修会A（9月8日)「社会における応用心理士の使命と課題・留意点」神作博先生（中京大学名誉教授)，研修会B（9月9日)「コンフリクト転換のカウンセリング」井上孝代先生（明治学院大学）

③広報委員会（所委員長）

・ニュースレター次号の発行は大会終了後，11月頃を予定。

・ホームページの再構築作業中である。

④「応用心理士」認定審査委員会

（浮谷委員長）

・19名の申請があり16名を合格・認定した。合格者のうち1名は辞退した。

・広報の方法ならびにポイント制について今後検討する予定である。

⑤国際交流委員会（蓮花委員長）

・第26回国際応用心理学会特集号については，抜刷代を負担する予定である。

・今年度末には，オーストラリア（メルボルン）での大会について，企画内容等を検討する予定である。

⑥若手研究者支援委員会（田之内委員長）

・第73回大会時の活動報告があった。責任発表者である院生の発表費の全額補助について，補助件数は20件，補助率は22%であった。自主シンポジウム等の企画責任者への補助は0件，非会員学生の当日参加優遇措置は9件であった。

・若手研究者への学会大会参加支援制度の利用申込み者は現在3名である。今年度の大会では約40件の大学院生の発表があるにもかかわらず，申込み者が少なかった。来年度の大会に向けて，大会当日の対応の仕方ならびに広報手段等を今後検討したい。

・広報手段について，大会申込み手続きの際，大学院生が紙媒体の確認をせず，Webでのみ，大会情報を得ている可能性が示唆された。Web上での注意喚起も来年度の検討課題である。

・今年度については，大会当日，該当する発表者向けにカードを配布して広報に努める。

⑦学会賞選考委員会（荻野委員長）

（旧：学会賞・奨励賞選考委員会）

・学会賞規程ならびに学会賞選考細則の変更に関する経緯について説明があった：奨励賞は廃止し，学会賞を論文部門と実践活動部門の2本にするとともに，学会賞の授与を隔年とした。

3)　設立60周年記念事業報告（岡村理事長）

・日本応用心理学会設立60周年記念事業として，『応用心理学事典』（丸善）を刊行した。これに関連して，2007年2月23日，出版記念パーティーならびに高嶋正士先生による記念講演を開催した。

4)　その他

・会員名簿発行について報告があった。

(2)　2006年度第73回大会報告

（松田大会準備副委員長）

・大会収支決算について報告があった。

(3)　日本心理学諸学会連合報告

（垣本担当常任理事）

・役員選挙が行われ，会長に市川伸一先生（日本教育心理学会)，副会長に大坊郁夫先生（日本社会心理学会)，野島和彦先生（人間性心理学会）が選出された。

・「心理学検定（1級・2級)」の実施が決定した。2008年9月14日札幌，東京，名古屋，大阪，福岡にて開催予定。現在は募集要項，マニュアル等作成中（たとえば，受験条件：誰でも受けられる。合格基準：1級＝A領域5つ，B1つ以上合格者，2級＝A2つ，B1つ以上合格者。認定心理士については，A領域で3つ以上合格，など）である。

・検定局員30名が任命され，実務にあたっている。約2,500万円の予算がついていることのほか，作業日程の概略について説明

があった。

・資格制度検討委員会が16名の委員で構成され，検定合格者や認定心理士との整合性について社団法人日本心理学会，認定心理士会等を交え，8回の会合を重ね，調整している。

5. 審議事項

(1) 2006年度決算に関する件（浮谷事務局長）

・決算書について浮谷事務局長より説明があった。続いて，藤森立男監事より監査結果について報告があり，承認された。

(2) 2007年度予算に関する件（浮谷事務局長）

・予算案について浮谷事務局長より説明があり，承認された。

(3) 名誉会員推戴に関する件（岡村理事長）

・常任理事歴通算2期以上の経験者である馬場房子氏，垣本由紀子氏の2名が推戴され，承認された。

(4) 2009年度第76回大会当番機関に関する件（岡村理事長）

・川本利恵子先生（九州大学）を大会委員長にすることが提案され，承認・決定した。産業医科大学（北九州市）または九州大学にて開催予定で調整中であるとの挨拶があった。

6. 名誉会員称号証書授与

・垣本由紀子氏と馬場房子氏に名誉会員称号証書が岡村理事長より授与された。

7. 2008年度第75回大会委員長挨拶（藤森大会委員長：横浜国立大学）

・9月14（日）15日（月）に横浜国立大学において開催されるので多くの方が参加していただければと挨拶があった。

2007年度第4回常任理事会議事録

日　時：2007年11月17日（土）
午前11時30分～午後1時30分

場　所：東京富士大学本館1階第2会議室

出席者：岡村一成理事長，荻野七重副理事長，浮谷秀一，大橋信夫，垣本由紀子，所　正文，内藤哲雄，藤森立男（第75回大会委員長）蓮花一己　（以上9名）

委任状：田之内厚三，藤田主一，松田浩平，向井希宏，南　隆男（以上5名）

事務局：浮谷秀一（事務局長）

1. 報告事項

(1) 理事長挨拶

・第74回大会開催の御礼を述べた。

(2) 委員会報告

1) 機関誌編集委員会（代理：浮谷事務局長）

・機関誌第33巻第1号の編集作業は終了し，国際文献印刷社に入稿した。内容は，総説論文2本（その内1本は英文），短報論文6本，実践報告1本，追悼文（亀井一綱先生）1本，事務局だより，その他。

・4月14日に開催された公開シンポジウムについては原稿が未入稿のため次号の掲載になる予定であり，本日開催される公開シンポジウムについては次次号に掲載する予定である。

・今年度の第74回大会におこなわれたシンポジウムとワークショップの中から，1つから2つを選び機関誌に記録として取り上げることが提案され了承された。

・現在の編集委員の外島裕先生から都合により委員を辞退したいとの申し出があったことを受け，残任期間を松下由美子先生（山梨県立大学）に勤めていただくことが提案され承認された。

2) 企画委員会（内藤委員長）

・本日午後2時から公開シンポジウムが開催される。テーマは「異文化対立から相互理解へ―理解と和解のためのフロンティア―」，話題提供者は井上孝代氏（明治学院大学）と伊藤哲司氏（茨城大学），指定討論者は大渕憲一氏（東北大学）である。

3) 広報委員会（所委員長）

・ニュースレター第18号（2007年11月5日）が発行された。

4) 認定「応用心理士」認定審査委員会（浮谷委員長）

・2007年度後期の申請締め切りを平成20年1月末まで延長した。

・現在2名の申請を受け付けている。

5) 国際交流委員会（蓮花委員長）

・今年度末には，オーストラリアでの大会について，企画内容等の検討を検討する委員会を開催する予定である。

6) 若手研究者支援委員会（田之内委員長）

・若手研究者の大会参加支援制度の受けた内訳は，自主シンポジウム，ワークショップなどの補助4件80,000円，研究発表補助24件72,000円，非会員の当日参加補助は11件22,000円，合計174,000円である。今年度を振り返り，支援対象者の範囲を広げることやWeb上での申込み者にわかりやすい記載をする必要性などの検討事項が挙げられた。

(3) 日本心理学諸学会連合報告（垣本常任理事）

・12月に理事会が予定されている。

(4) 2007年度第74回大会について（蓮花大会委員長）

・2007年9月8日9日に帝塚山大学学園前キャンパスにおいて開催された。参加者数の報告が資料をもとに報告された。ちなみに大会参加者は，正会員216名，名誉会員・終身会員7名，非会員（学生含む）51名であった。

(5) 2008年度第75回大会について（藤森大会委員長）

・2007年10月23日に第1回目の打ち合わせを行った。全体のスケジュールや役割分担などについて決定した。現在決まっている内容は，村上陽一郎先生（国際基督教大学教授）による「安全学の展開」と永田良昭先生（学習院大学名誉教授）による「人と社会の関係態の新しいストーリー」という特別講演2件，佐土原聡先生（横浜国立大学教授）による「GIS（地理情報システム）と応用心理学」という大会企画シンポジウム1件，そのほか大会企画のワークショップ2件が決まっている。

2. 審議事項

(1) 新入会員審査および会員異動に関する件

・新入会員申込みのあった3名について審査，以下の3名を承認した。

大西彩子　肥後梨恵子　綿村英一郎

・11月15日現在，会員数1,148名（内訳：正会員数1,064名，学生会員3名，名誉会員39名，終身会員38名，賛助会員4名）。入会者6名，退会者6名。

＊次回の常任理事会は，2008年2月15日（金）午後5時から東京富士大学で開催する予定である。

2007年度第5回常任理事会議事録

日　時：2008年2月15日（金）
午後5時～午後8時

場　所：東京富大学本館1階第2会議室

出席者：岡村一成理事長，荻野七重副理事長，浮谷秀一，垣本由紀子，田之内厚三，所　正文，内藤哲雄，藤田主一，松田浩平，藤森立男（第75回大会委員長）　（以上10名）

委任状：松浦常夫，南　隆男，向井希宏，蓮花一巳（以上4名）

事務局：浮谷秀一（事務局長），伊波和恵（事務局幹事）

1. 報告事項

(1) 理事長挨拶

(2) 委員会報告

1) 機関誌編集委員会（藤田委員長）

・第33巻第1号の発刊について説明があった：総説2*，短報6，実践1，追悼1。

・第33巻第2号の編集状況（投稿数）について説明があった：原著7，総説1，資料2*，短報4*。その他の記事として，2007年度大会公開シンポジウム記録，2007年度大会自主ワークショップの記録および日本心理学会自主ワークショップの記録。（*そのうち，1本は英文。）

・「短報」の反応が大変よく，問い合わせも投稿件数も増えた。課題としては，英文投稿数，認知生理系の投稿数が伸びているので，審査を円滑にするためにも，対処が必要である。

・外島裕氏に代わり，松下由美子氏（山梨県立大学）が編集委員に就任（任期：2009年3月まで）。

・琉球大学学術リポジトリ事務局から『応用心理学研究』に掲載の論文について，当該

HPでの公開について許可依頼があり，理事長，事務局長，ならびに編集委員間で協議の結果，学会として掲載を許可し，その旨，先方に通知した。論文や記事のHP上での公開や転載については，多様なケースが考えられるので，今後も引き続き検討したい。

2) 企画委員会（内藤委員長）

・大会時研修会については，次の講師・テーマで交渉することとなった：看護系のトピックスをテーマに，松下由美子先生（山梨県立大学），臨床心理学をテーマに，林潔先生。

・公開シンポジウムは11月頃に実施するということが確認された。

・公開シンポジウムについては，集客効果もよく考慮して，内容，演者，広報の方法，会場について，さらに検討することが必要である。（日心等の他学会で応心の企画をする，等。）集客数が低迷するままであるようならば，シンポジウムのあり方自体を再検討することとする。

3) 広報委員会（所委員長）

・ニュースレター次号の発行は春を予定。

・ホームページについては松田委員を中心に再構築作業中。年度内に試験版は公開開始見込み。

4) 認定「応用心理士」認定審査委員会（浮谷委員長）

・2月9日委員会開催，2名申請2名合格（うち1名については条件を付して）が認められた。

・資格名称について，認定「応用心理士」か「応用心理士」か，表記上の混乱があるので，統一見解があったほうがよいとの議論があり，常任理事会に結論を依頼した。その結果，日本応用心理学会が認定する「応用心理士」であり，「応用心理士」が正式名称であることが確認された。

・資格の内容，有資格者研修等もさらに検討し，応用心理士の付加価値，魅力を高めるとともに，認知度を上げる努力も必要であろう。心理学の資格紹介記事の執筆，NLでの広報，など。

・資格取得に際して，2年以上会員であるという条件の見直し，ポイント制への変更など，従来よりも取得しやすいという方向性も検討している。資格のあり方については，認定審査委員会に一度持ち帰り，ワーキンググループの立ち上げも含めて，継続審議することとなった。

5) 国際交流委員会

・とくになし。

6) 若手研究者支援委員会（田之内委員長）

・第74回大会当日，急遽委員会を開催し，社会人の大学院生，研究生についても，助成金支給を認めることとした。

・当日の申出が多いので，可能なかぎり事前申請の協力を促す。Web上で注意喚起を呼びかけたいので，藤森大会委員長にWeb申込画面で，院生に対して次のような文章を掲載してもらうよう依頼した。

『責任発表者は大会参加費の補助があります。ついては，国際文献に学生証のコピーを送付してください。』

7) 学会賞選考委員会（荻野委員長）

・審議事項にて。

(3) 日本心理学諸学会連合報告（垣本常任理事）

・日心連の事務局長が沢崎先生（東京大学）となり，事務局は文京区・本郷に設置，専任事務員は1名。役員選挙が行われ，会長：市川伸一先生（日本教育心理学会），副会長：大坊郁夫先生（日本社会心理学会），野島和彦先生（人間性心理学会）が選出された。

・「心理学検定（1級・2級）」実施が決定し，HPが設置された。2008年9月14日札幌，東京，名古屋，大阪，福岡にて開催予定。受検者見込み3,000人。検定局長は太田信夫先生，検定局員30名。

・認定心理士の扱いについては検討中。

(4) 2008年度第75回大会について（藤森大会委員長）

・Web申込みを増やすべく手法を検討中。

・会場については，キャンパス内で最終調整中，日程は変更なく開催予定。

・懇親会は横浜・中華街にて開催予定。

3. 審議事項

(1) 名誉会員および終身会員に関する件

・対象となる1937年4月1日～1938年3月31日生まれの，名誉会員推戴候補者のリストが配布された。次回に審議し決定することになった。

・終身会員についても，候補者のリストが配布された。

(2) 学会賞に関する件（荻野委員長）

・対象者の選定は，理事からの推薦を参考にして荻野委員長と4名の委員の合議ですることになった。

(3) 会員の異動および会費納入状況

（浮谷事務局長）

・新入会員申込みのあった下記の5名について審査し，全員を承認した。

松井裕子，上出寛子，松原詩緒

飯野　歩，加藤　司

・2月12日現在，会員数1,150名（内訳：正会員数1,066名，学生会員3名，名誉会員39名，終身会員38名，賛助会員4名），新入会者6名，退会者4名（ご逝去：洞内祥次氏）。

(4) その他

・2008年度予算案を立案中。事務局運営に関する一部の費目について説明があった。次回理事会において詳細を審議する予定。

・事務局より各委員会委員長に対して，2007年度決算資料および2008年度の事業計画ならびに予算案を提出するように依頼があった。

・『応用心理学事典』の廉価版，分冊の刊行について問い合わせがあった。丸善からは，春に従来版を増刷予定であり，分冊については難しいとの回答があった。廉価版の刊行については丸善の判断に委ねることになった。

＊次回の常任理事会については，4月25日（金）18時から東京富士大学会議室において開催予定。

日本応用心理学会 2006 年度決算

（2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日）

収入			支出		
項目	決算額	予算額	項目	決算額	予算額
会費	5,746,000	5,760,000	第 73 回大会補助費	700,000	700,000
過年度分（71 名）	426,000	480,000	学会賞・奨励賞	0	100,000
本年度分*（871 名）	5,218,000	5,280,000	心理学諸学会連合	90,000	90,000
来年度以降分（17 名）	102,000		シンポジウム・講演費謝金	118,000	200,000
*学生会員 2 名・2,000 円不足 1 名含			研修会講師謝金	60,000	100,000
賛助会費	40,000	30,000	国際交流費	917,420	1,000,000
「応用心理士」関係	751,000	800,000	「応用心理士」関係経費	629,287	700,000
審査料	210,000	200,000			
認定料	540,000	600,000	委員会活動費	580,660	960,000
その他	1,000		機関誌編集委員会	193,533	250,000
			企画委員会	157,659	300,000
			広報委員会	28,900	100,000
			国際交流委員会	180,890	100,000
機関誌売り上げ	537,500	—	諸規程整備検討委員会	0	10,000
雑収入	20,688	400,000	若手研究者支援委員会	0	50,000
			学会賞・奨励賞選考委員会	17,498	50,000
前年度繰越金	3,770,799	3,770,799	倫理委員会	2,180	100,000
名簿作成取崩金	1,000,000	1,000,000	印刷費	2,982,824	2,900,000
			機関誌	1,225,770	1,500,000
			広報関係	181,440	200,000
			名簿作成費（郵送費他込み）	1,485,157	1,000,000
			その他	90,457	200,000
			通信費	443,986	850,000
			機関誌郵送費	87,271	200,000
			広報関係郵送費	159,920	350,000
			その他	196,795	300,000
			常任理事交通費	334,220	500,000
			事務局運営費	376,685	700,000
			事務局委託費	788,460	800,000
			心理学諸学会連合分担金・協力金	300,000	300,000
			名簿作成積立金	0	0
			特別企画積立金	500,000	500,000
			予備費（60 周年記念事業補助）	661,990	1,360,799
			次年度繰越金	2,382,455	0
合計	11,865,987	11,760,799	合計	11,865,987	11,760,799

《別途会計》

1. 名簿作成積立金

2005 年度繰越金	2,000,000
2006 年度取崩金	−1,000,000
	1,000,000

2. 特別企画積立金

2005 年度繰越金	2,500,000
2006 年度積立金	500,000
	3,000,000

3. 若手育成基金

2005 年度繰越金	1,400,000
高嶋正士名誉会員から寄付	500,000
第 73 回大会から寄付	102,378
2006 年度支援金	−81,000
	1,921,378

以上のとおり相違ありません。

平成 19 年 7 月 28 日　監事　玉井　寛 ㊞

平成 19 年 7 月 28 日　監事　藤森立男 ㊞

日本応用心理学会　2007 年度予算案

（2007 年 4 月 1 日～2008 年 3 月 31 日）

収入				支出		
項目	予算額		前年度予算額	項目	予算額	前年度予算額
会費	5,760,000		5,760,000	**第 74 回大会補助費**	700,000	700,000
過年度分	480,000	80 名	480,000	**学会賞・奨励賞**	—	100,000
本年度分	5,280,000	880 名	5,280,000	**心理学諸学会連合**	90,000	90,000
				シンポジウム・講演費謝金	200,000	200,000
				研修会講師謝金	100,000	100,000
賛助会費	30,000		30,000	**国際交流費**	250,000	1,000,000
「応用心理士」関係	600,000		800,000	**「応用心理士」関係経費**	200,000	700,000
審査料	150,000		200,000			
認定料	450,000		600,000	**委員会活動費**	1,150,000	960,000
その他	0			機関誌編集委員会	350,000	250,000
				企画委員会	300,000	300,000
雑収入	500,000		400,000	広報委員会	200,000	100,000
				国際交流委員会	150,000	100,000
前年度繰越金	2,500,000		3,770,799	諸規程整備検討委員会	—	10,000
				若手研究者支援委員会	50,000	50,000
名簿作成積立金取崩金	—		1,000,000	学会賞選考委員会	—	50,000
				倫理委員会	100,000	100,000
若手育成基金取崩金	—		400,000			
				印刷費	1,800,000	2,900,000
				機関誌	1,500,000	1,500,000
				広報関係	200,000	200,000
				名簿作成費（通信費を含む）	—	1,000,000
				その他	100,000	200,000
				通信費	650,000	850,000
				機関誌郵送費	200,000	200,000
				広報関係郵送費	200,000	350,000
				その他	250,000	300,000
				常任理事交通費	400,000	500,000
				事務局運営費	700,000	700,000
				事務局委託費	800,000	800,000
				若手支援費	—	400,000
				心理学諸学会連合分担金・協力金	—	300,000
				名簿作成積立金	500,000	0
				特別企画積立金	500,000	500,000
				予備費	1,350,000	1,360,799
				次年度繰越金	0	0
小計	9,390,000		12,160,799	小計	9,390,000	12,160,799

《別途会計》

1. 名簿作成積立金

2006 年度繰越金	1,000,000
2007 年度積立金	500,000
	1,500,000

2. 特別企画積立金

2006 年度繰越金	3,000,000
2007 年度積立金	500,000
	3,500,000

3. 若手育成基金

2006 年度繰越金	1,921,378
2007 年度支援金	−300,000
	1,621,378

日本応用心理学会第 73 会大会収支決算報告書

収入				
項目		単価	数量	金額
大会参加費	正会員（予約）	¥5,000	136	¥680,000
	正会員（当日）	¥6,000	56	¥336,000
	学生会員（予約）	¥2,000	32	¥64,000
	学生会員（当日）	¥3,000	4	¥12,000
	非会員一般（予約）	¥6,000	32	¥192,000
	非会員一般（当日）	¥7,000	10	¥70,000
	非会員学生（予約）	¥3,000	5	¥15,000
	非会員学生（当日）	¥3,500	14	¥49,000
		小計		¥1,418,000
ワークショップ企画費	正会員	¥5,000	9	¥45,000
	学生会員	¥3,000	1	¥3,000
		小計		¥48,000
ポスター発表費	正会員	¥5,000	108	¥540,000
	学生会員	¥3,000	31	¥93,000
	非会員一般連名発表	¥10,000	15	¥150,000
	非会員学生連名発表	¥8,000	5	¥40,000
		小計		¥823,000
論文集	論文集（予約）	¥5,000	29	¥145,000
	論文集（当日）	¥6,000	30	¥180,000
	プログラム	¥1,000	9	¥9,000
		小計		¥334,000
懇親会	懇親会（正会員・予約）	¥5,000	41	¥205,000
	懇親会（正会員・当日）	¥6,000	16	¥96,000
	懇親会（学生・予約）	¥2,000	11	¥22,000
	懇親会（学生・当日）	¥3,000	4	¥12,000
		小計		¥335,000
研修会	会員（予約）	¥500	49	¥24,500
	会員（当日）	¥1,000	11	¥11,000
	非会員（当日）	¥1,500	8	¥12,000
		小計		¥47,500
協賛金・寄付金		¥398,215	1	¥398,215
学会本部援助金		¥700,000	1	¥700,000
理事会助成金		¥100,000	1	¥100,000
文京学園学会補助費		¥100,000	1	¥100,000
その他（利息）		¥491	1	¥491
収入合計				**¥4,304,206**

支出			
項目	単価	数量	金額
印刷費等			
大会通信（1200 件）	¥296,500	一式	¥296,500
大会申込（1088 件）	¥112,064	一式	¥112,064
大会 Web ページ	¥163,728	一式	¥163,728
プログラム（1300 部）	¥377,580	一式	¥377,580
論文集（300 部）	¥367,605	一式	¥367,605
諸雑費	¥10,188	一式	¥10,188
△遅延及び業務調整値引	△¥312,978	一式	△¥312,978
小計			¥1,014,687
通信費			
大会通信（1088 件）	¥145,024	一式	¥145,024
大会論文集（203 件）	¥256,421	一式	¥256,421
大会口座管理費	¥80,680	一式	¥80,680
通信庶務	¥150,000	一式	¥150,000
△遅延及び業務調整値引	△¥191,185	一式	△¥191,185
小計			¥440,940
特別講演謝金	¥50,000	1	¥50,000
特別講演講師交通費	¥30,000	1	¥30,000
特別講演施設使用費	¥92,450	1	¥92,450
総会費	¥228,450	1	¥228,450
ワークショップ	¥9,700	10	¥97,000
研修会	¥6,700	2	¥13,400
ポスター発表（レンタルパネル）	¥160,650	1	¥160,650
小計			¥671,950
理事会会場費	¥49,434	1	¥49,434
理事懇親会費	¥197,550	1	¥197,550
懇親会費（107 名）	¥442,500	1	¥442,500
小計			¥689,484
準備委員会運営費	¥168,900	1	¥168,900
大会本部運営費	¥74,032	1	¥74,032
消耗品費	¥365,135	1	¥365,135
学生謝金	¥10,000	46	¥460,000
渉外費	¥206,600	1	¥206,600
手数料	¥6,200	1	¥6,200
郵送費	¥3,900	1	¥3,900
小計			¥1,284,767
文京学園へ返却	¥100,000		¥100,000
学会事務局費へ繰り込み	¥102,378		¥102,378
支出合計			**¥4,304,206**

以上のとおり相違ありません。

平成 19 年 8 月 4 日　監事　上村佳世子 ㊞

平成 19 年 8 月 4 日　監事　西尾博行 ㊞